

平成30年10月18日(木)から2日間、第1回地域共生社会推進全国サミットが開催されました。本市開催ということで、開会及び閉会のあいさつを行いましたので紹介します。本サミットは『地域共生社会って?まざって暮らす わずらわしいまちづくり』をメインテーマに掲げ、地域共生社会の実現に向けた理解を深めるとともに、本市が進める「市民主体のまちづくり」の考え方を全国の方々に発信しました。

サミット開会のあいさつ

皆さん、こんにちは。ようこそ長久手市へお越しいただきました。私は『第1回地域共生社会推進全国サミット in ながくて』実行委員長の長久手市長の吉田です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今日は、北は北海道から南は沖縄まで、全国から約900人の方々がこの長久手市へお越しいただきました。2000年から昨年まで介護保険推進全国サミットとして行われていましたが、18回を過ぎまして、今回19回目ですけれども、これからは『地域共生社会推進全国サミット』ということで、1回目をこの地で行うことになりました。



今日は来賓の方がたくさんおみえになっています。まず、厚生労働省から社会・援護局長の谷内さんにおいでいただきました。ありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

それから、愛知県知事大村秀章さんもお越しくださいました。ありがとうございます。大村さんにはジブリパークを造っていただきます。それを楽しみにして、皆さんには、また長久手市に来てほしいと思っています。

併せて、長久手市の議長、それから県会議員など、たくさんの方が来賓として来ていただきました。ありがとうございました。

今日から『地域共生社会推進全国サミット』が長久手市で行われます。後ほど唐澤さんから、共生とはごちゃまぜだという話があります。私は共生については、嫁としゅうとめと一緒に暮らすようなものだと思います。これは難しいです。婿は、特に嫁としゅうとめの間でどうしたらいいかと思いながら、何年も毎日暮らすことがあります。

今日は鹿児島県の伊仙町の町長さんがお見えになっています。そこは6,000人の町で、日本で一番子どもが生まれている所です。そこでは、嫁としゅうとめと一緒にいるというわずらわしいことが、当たり前だとおっしゃっています。新しく大きくなったまちは、

本当にわずらわしいことをちょっと避けているまちです。

もう一つ、地域ということについてです。会社や学校は試験で採用しますが、まちに住むということは試験で来るわけではありません。いろいろな方がいます。二つ目に、能力は関係ありません。寝ていてもいいです。寝たきりでもいいです。そのような人たちが一緒に暮らす地域で、わずらわしい人間関係をどうしたらいいのかということで、長久手市はわずらわしいまちをつくるのに、7年間、いろいろなことをしてきました。

今回、皆さんのお手元に資料が配布されていますが、私はわずらわしいまちをつくるために、「遠まわりするほど、おおぜいが楽しめ、うまくいかないことがあるほど、いろいろ



な人に役割がうまれる」ということを、市役所でずっと言ってきました。今まできちんと早くやるというのが行政の仕事でした。それを遠回りしたほうがいい、失敗したほうがいいと言うものですから、今、役所の皆も悩んでいます。

併せて地域の皆さんにも、役所はもう何もかもしない、皆さんが自分たちでありとあらゆる

るものを考えてやってくださいと言っています。嫌な冷たい行政かも分かりませんが、そういうことをやっています。今の私たちよりも、これから生まれてくる子どもたちが大人になる30年後ぐらいには、実はわずらわしいまちで良かったと思うだろうということで進めています。市役所の職員も、市民も、私も、嫁としゅうとめの間に立った婿のようなもので、とても悩ましいことは続いています。

そのような悩ましいことが、実は面白いということ、長久手市へこのサミットがやってきました。今日と明日、わずらわしいところの暮らし方や、一緒に混じって暮らすのはどうするのか、地域とは何か、嫁としゅうとめの付き合い方など、素晴らしい先生方が教えてくれます。2日間かかって、悩みながら、これからのまち、これからの日本をつくっていくために、いいアイデアも出ると思います。ぜひ、よろしくお願ひしたいとも思います。

ここは愛知県立大学ですけれども、向こうはモリコロパークで、どちらもいい所ですので、ぜひゆっくりしてってください。

最後に一つ、私はオレンジベストを着ています。町中であいさつぐらいしたらどうだと市民の皆さんが言われまして、このベストを作りました。これを毎日着ていても、あいさつ一つがなかなか難しいです。きょうは市役所の職員もたくさん、これを着ています。是非あいさつからでも、まちづくりをしたいと思っています。また、そのために市民の皆さん

んが、今日は大勢来ています。私たちが手伝ってあげようということで、サミットたのしみ隊としてたくさん応援していただいています。今日はゆっくりしていただければと思います。夜も、また交流会がありますので、そのときに、また、いろいろお話をさせてもらえればと思います。

どうも、今日はありがとうございます。よろしくお願いします。

サミット閉会のあいさつ

2日間にわたり、一生懸命勉強しました。また、台風や地震等、いろいろなことがありましたが、遠くからここまで足を運んでいただき、どうもありがとうございました。

今日、「第1回地域共生社会推進全国サミット in ながくて」が、ありがたいことに長久手市で行われました。今日は長久手市民もたくさん来ています。まざって暮らす『わすらわしいまちづくり』と言うけれど、市長は何を言っているのか分からないといつも言われます。今日は、少しは分かってもらえたのではないかと思います。



私はいつも、「遠回りすればするほどおおぜいが楽しめ、うまくいかないことがあればあるほどみんなに役割が生まれる」と唱えています。皆さんの手元の資料の裏表紙にも載っています。

今までの社会は、早く、きちんとする社会でした。多分、それで縦割りになり、専門を生んできたのだと思います。今度は新しい社会がやってきたように思います。特に、ゆっくりすると大勢の人が参加できます。「あんなに遅いなら自分のほうが間に合う」、「あの市長なら自分の方がいい」とみんなが思うと、多分、そこから共生が始まるのだと思いました。待つことができる人が増えれば、寝たきりの人でも「それなら自分ができることがある」という話になるかもしれません。

私は、これから生まれてくる人たちが2050年を迎える頃、私たちは誰もいないかもしれませんが、そのときに「ああ、いいな」と言ってもらえたらいいと思っています。多分、今は何のことか分からず、明日からまた、長久手市長は何を言っているのかと言われると思いますが、そんな先のことを楽しみにしています。

ゆっくりと回り道をするとながりが生まれ、人が育ちます。それはわすらわしいことでもあります。そのわすらわしさを、ここにいる皆さんに、また全国の皆さんに広め、わすらわしさが気持ちいいという世の中になれば楽しいだろうと思っています。

次回は湯沢市ですので、楽しんで行きたいと思っています。来年からは、わすらわしく、遠回りや失敗のできる世の中が来るのではないかと考えて楽しみにしています。

先生方には、こうしてわざわざ長久手市に来ていただき、本当に心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。